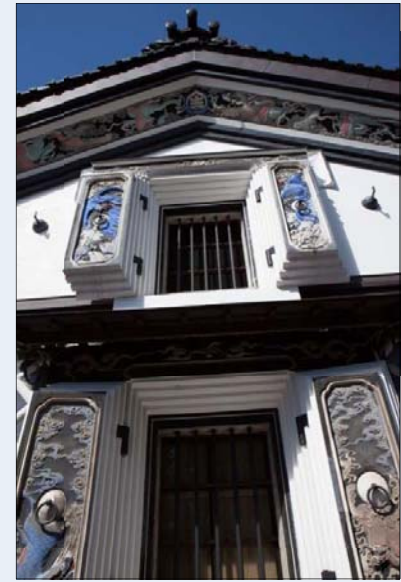


■ 機那サフラン酒本舗 現況写真





東洋のフレスコ画ともよばれる「饅絵」で飾られたこの蔵には、青龍や牛をはじめとする十七種の動物・霊獣、九種の植物が極彩色で描かれています。

機那サフラン酒本舗の饅絵の蔵は、そのデザインの美しさ、色の鮮やかさ、一つの建物に数多くのデザインがあるなどの理由で、日本一の饅絵の蔵と賞賛されています。



↑北壁面を装飾する饅絵



饅絵とは土蔵や家屋の戸袋や壁面などに描かれたレリーフのことである。平に塗られた漆喰壁面に、饅を使って薄肉状に盛り上げた浮き彫りを施した。左官の卓越した技能を要し、明治期から大正期にかけて盛んに施工されたが、百年を経た今、現存するものは少なくなつた。サフラン酒の初代吉澤仁太郎は左官伊吉と共に各地を巡って構想を練り上げこの作品を創り上げた。当時頻繁に小出の開山堂を訪れたことから、石川雲蝶の影響を受けたことが推察される。



↑南壁面

↓南面(屋内)



↑「饅絵蔵」平成18年に国の有形要録文化財に指定される。

「衣装蔵」にも饅絵が施されている。

機那サフラン酒の看板がかかる主屋、お酒を購入する際は 玄関脇のインターフォンを押してください。

立派な石塀に囲まれた機那サフラン酒本舗の敷地に入ると、正面に見事な瓦屋根の主屋が迫るよう現れる。その右手に白と黒の壁に青い鳥や竜が踊る秀麗な蔵を見ることが出来る。

には衣装蔵、庭園と続く、その奥には樺の一枚板を使った長い廊下と梁が見事な離れがあります。そのいずれをとつても目を見張るほどの立派な文化財である。しかし、新潟県中越地震の被害が甚大で現在修復を完了しているのは「饅絵の蔵」のみである。そのため残念ながら、現在一般の方が目にする事ができるのは主屋と饅絵の蔵の外観のみである。



← 離れ ※庭も離れも現在は公開されていません。  
→ 庭園の石灯籠。佐渡の赤玉石や鬼押し出しから運んだ奇岩も。手を入れれば名園になりうる。